

乳幼児の健康と親の育児意識に関する研究

A Study on the Health of Infants and the Parents' Consciousness of Rearing Their Infants

(1988年4月7日受理)

Key words: 乳幼児, 生育状況, 育児意識

藤井 葉
Shiori Fujii

はじめに

社会の民主化とGNPの上昇によって、わが国の戦後の家庭生活は瞠目の変容をきたしている。ことに主婦は家電製品の普及により煩雑な家事労働が大幅に軽減された。それに伴って育児についても様々な変化が表れたが、すべてが好転したわけではない。核家族化による育児知識の伝承不能、主婦の就労、人口の都市集中による居住空間の狭小化、子どもの遊び場の激減など、乳幼児の健康にかかわる生活環境は相対的に悪化しているものもある。こうした状況の中で乳幼児を育てる親の意識はどのように変貌しているのか、将来を模索するためその実態を把握する必要がある。

かねてより保育所児の家庭に対するアンケート調査を行い、乳幼児をとりまく現環境の諸要素と健康とのかかわりについて考察しており、既に「保育所児の主要傷病罹患の実態」、「保育所児の主要傷病罹患と住居環境の関係」、「保育所児の健康状態と生育環境の関係」、「保育所児の健康状態と住居環境の関係」、「家族の喫煙と乳幼児の健康に関する研究」を報告した。

今回は、保育所児の出生順位・出生時体重・乳児期栄養法・既往症の有無等と、保健衛生に関する親の育児意識とのかかわりについて考察を試みたので報告する。

研究方法

1. 調査対象：岡山県下の保育所中、24の保育所児2,171名で、内訳は表1のとおりである。
2. 調査時期：昭和61年6月1日～6月30日
3. 調査方法

表1 調査人数内訳

(単位：人)

性	年齢						
	0~1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	計
男児	74	126	247	334	268	67	1,116
女児	81	130	235	312	244	53	1,055
計	155	256	482	646	512	120	2,171

協力の得られた保育所を通じ、園児の保護者に対して質問紙法による調査を実施した。

4. 調査用紙の配布および回収

質問紙の配布は2,596枚、回収2,262枚、う

ち有効回答2,171枚、有効回答率は83.6%である。

5. 調査項目

- 1) 園児の生育状況 (①出生順位 ②出生時体重 ③乳児期栄養法 ④既往症の有無)
- 2) 保健衛生に関する親の育児意識 (①住居について ②食物について ③衣服について ④睡眠について ⑤運動について ⑥衛生習慣について)

結果および考察

1. 生育状況について

出生順位を、第1子、第2子、第3子以上の3区分に、出生時体重を、2500g未満、2500~2999g、3000~3499g、3500g以上の4区分に、乳児期栄養法を、母乳栄養、人工栄養、混合栄養の3区分に、

表2 生育状況

区分人数	出生順位			出生時体重				乳児期栄養法				既往症		
	第1子	第2子	第3子上	2500g未満	2500g~2999g	3000g~3499g	3500g以上	無回答	母乳栄養	人工栄養	混合栄養	無回答	有る	無し
n	927	911	333	144	601	955	424	47	727	376	1059	9	2070	101
%	42.7	42.0	15.3	6.6	27.7	44.0	19.5	2.2	33.5	17.3	48.8	0.4	95.3	4.7

既往症を有ると無しの2区分に、それぞれ分類して集計すると表2のとおりである。

- 1) 出生順位：今回の調査では、第1子が42.7%で最も多く、次いで第2子の42.0%、第3子以上は15.3%以上で最も少ない。
- 2) 出生時体重：最も多かったのは3000~3499gで44.0%、次に2500~2999gの27.7%、3500g以上児の19.5%がこれに次ぎ、2500g未満の低体重児は6.6%で最も少ない状況であった。
- 3) 乳児期栄養法：混合栄養児が最も多く48.8%、次いで母乳栄養児の33.5%、人工栄養児は17.3%で最も低率であった。
- 4) 既往症：これまでに何らかの疾病に罹患したことがある、即ち既往症が有ると答えたものは95.3%と高率を示し、既往症が無いと答えたものはわずかに4.7%であった。

2. 保健衛生に関する親の育児意識について

子どもの健康を保つために、日常生活において特に注意していることがあるか否かの設問に対して、「特に注意していない」と答えたものが2,171人中763人(35.1%)あり、現代の親たちの保健衛生に関する意識は必ずしも高いとは言えない。「注意していることがある」場合、どのようなことを注意しているのか、住居・食物・衣服・睡眠・衛生習慣の6項目について自由記述されたものをまとめ、それを意識率の高い順に並べると表3のとおりである。

表3 乳幼児の保健衛生にかかわる親の育児意識

1位 食物に関する育児意識 n=1592 (24.3%)			2位 衛生習慣に関する育児意識 n=1476 (22.6%)			3位 衣服に関する育児意識 n=1129 (17.2%)			4位 睡眠に関する育児意識 n=1038 (15.8%)			5位 運動に関する育児意識 n=823 (12.5%)			6位 住居に関する育児意識 n=501 (7.6%)		
注していること	n	%	注していること	n	%	注していること	n	%	注していること	n	%	注していること	n	%	注していること	n	%
偏食をいひかえる	533	33.4	ジュース・炭酸飲料をひかえる	27	1.7	清潔なものを着せ	459	40.6	早寝早起き	329	31.7	戸外で遊ぶ	475	57.7	清潔・整頓	178	35.5
バランスのとれた食事	267	16.7	高カロリーで消化のよいものを与える	26	1.6	薄着にさせる	297	26.3	長眠時間を長く	298	28.7	自由になる	117	14.2	換気・通風・日当たり	151	30.1
野菜や果物を多く	194	12.2	手作りのものを与える	26	1.6	うがい	228	15.4	9時までに寝させる	151	14.5	なるべく歩かせる	57	6.9	屋内外防止	59	11.8
カルシウム・鉄分を摂る	89	5.6	新鮮なものを新鮮にする	22	1.4	入浴・洗髪	58	3.9	規則正しく寝起させさせる	135	13.0	体壇・マラソン・なわとび等で休めさせる	53	6.4	運動空間への配慮	36	7.2
甘いものをひかえる	86	5.4	塩ひかえる	12	0.8	排便	28	1.9	午睡をさせる	50	4.8	事故(危険)防止	39	4.7	温度・湿度の節	34	6.8
材料・量・調理法の工夫	70	4.4	生水・なまものを摂らない	12	0.8	洗濯	24	1.6	着いた寝具を洗う	29	2.8	親と一緒に遊ぶ	24	2.9	屋内外防止	23	4.6
間食に対する配慮	48	3.0	暴飲暴食をいひかえる	11	0.7	吸湿性	24	1.6	寝具の清潔・乾燥	22	2.1	体育施設に行く	16	2.0	害虫防止	10	2.0
添加物・農薬等の害の少ないもの	40	2.5	よく噛んで食べる	9	0.6	清潔	21	1.4	寝冷えさせない	8	0.8	発達段階に応じた運動をさせる	16	2.0	室内での禁煙	3	0.6
3度の食事を規則正しく	35	2.2	その他	30	1.9	日光浴・乾布まき等	7	0.5	添い寝をする	5	0.5	保育園にする	14	1.7	その他	7	1.4
毎日牛乳を飲む	28	1.8															
インスタント食品をさける	27	1.7															
計	1,592	100.0	計	1,476	100.0	計	1,129	100.0	計	1,038	100.0	計	823	100.0	計	501	100.0

意識率第1位は食物に関するもので総件数6,559の24.3%,第2位は衛生習慣に関するもので22.6%,第3位は衣服に関するもの17.2%,第4位は睡眠に関するもの15.8%,第5位は運動に関するもので12.5%,第6位は住居に関するもので7.6%である。

1) 食物に関する育児意識

食物に関する意識が最も高く且つその内容は多種多様であり,それをまとめると20項目に及んだ。その中で最も多かったのは「偏食をさせない」で33.4%,2番めに多いのは「バランスのとれた食事」の16.7%,3番めは「野菜や果物を多く」の12.2%であった。昔からよく言われている「よく噛んで食べる」が0.6%で19番めであるのに対し,「添加物・農薬の害の少ないもの」はその4倍の2.5%で8番めにあり,生活様式の変容に伴って親の育児意識に変化を来たしていることがうかがえた。

2) 衛生習慣に関する育児意識

衛生習慣に関するものをまとめると10項目であり,最も多いのは「手洗い」で45.8%,次いで「歯みがき」の26.3%,3番めは「うがい」の15.4%であった。最近問題視されている規則正しい「排便」を習慣づけることの意識は1.9%と低率であった。

3) 衣服に関する育児意識

衣服に関する意識も10項目にまとめられ,最も多いのは「清潔なものを着せる」の40.6%,次いで「薄着にさせる」の26.3%,3番めは「動きやすいもの」の10.7%であった。乳幼児にとって重要な「気温により調節」は3.4%,「吸湿性に富むもの」は3.2%と予想外に低い状況であった。

4) 睡眠に関する育児意識

睡眠に関する意識も10項目あり,最も多いのは「早寝早起き」の31.7%であり,次いで「睡眠時間を長く」の28.7%,3番めは「9時までに寝させる」の14.5%であった。このことから,最近のおとなの生活リズムが夜型であることの影響を受けて,従前の乳幼児の就寝時刻である8時より1時間ほどずれこんでいる状況がうかがえる。

5) 運動に関する育児意識

運動に関する意識も10項目にまとめられた。「戸外で遊ばせる」が圧倒的に多く57.7%,次に「自由に遊ばせる」の14.2%,3番めは「なるべく歩かせる」の6.9%であった。現代の子どもは運動遊びが減少していること,歩くことが極端に少ないことを親たちが実感し,強く意識して育児に当たっているように思われる。

6) 住居に関する育児意識

住居に関する意識は9項目にまとめられた。最も多いのは「清潔・整理整頓」で35.5%,次いで「換気・通風・日当たり」の30.1%で,3番めは「屋内外の危険防止」の11.8%であった。屋内での「運動空間への配慮」も7.2%あり,狭い住居内に多くの家具を入れている現代の家庭生活の影響がここにも表れていると言えよう。

3. 保健衛生に関する親の育児意識と乳幼児の生育状況の関係について

1) 食物に関する育児意識と生育状況の関係

食物に関する育児意識と生育状況とをクロス集計すると,表4のとおりである。

- ① 「偏食をさせない」:全体では24.6%と高い意識率を示している。育児意識と生育状況の間に有意差が認められたのは,児の年齢と乳児期栄養法であった。前者では3歳以前より4歳以後の親の育児意

表4 食物に関する育児意識と生育状況の関係

(単位:%)

区分	全体の意識率	年齢							性別			出生順位				出生時体重					乳児期栄養法				既往症		
		0-1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	x ² 検定	男児	女児	x ² 検定	1子	2子	3子以上	x ² 検定	2500g未満	2500g以上 2999g	3000g以上 3499g	3500g以上	x ² 検定	母乳	人工	混合	x ² 検定	有る	無し	x ² 検定
注意していること																											
偏食をさせない	24.6	21.3	18.8	21.2	26.8	28.7	25.0 *	25.6	23.4		24.3	26.0	21.0		31.3	23.8	24.7	24.1		24.5	19.9	26.3	*	24.3	30.7		
バランスのとれた食事	12.3	10.3	14.5	13.5	11.3	12.1	11.7	12.2	12.4		14.7	10.1	11.1	*	13.9	12.6	11.6	11.8		12.2	9.6	13.4		12.5	7.9		
野菜や果物を多く	8.9	9.0	8.2	9.3	9.1	7.8	12.5	8.7	9.2		9.5	9.2	6.6		8.3	8.3	9.3	9.0		9.9	6.6	9.1		9.3	1.0	**	
カルシウム・鉄分を摂る	4.1	5.2	4.7	4.4	4.0	4.1	0.8	4.2	4.0		5.1	4.0	1.8	*	3.5	5.2	3.7	3.3		4.3	2.1	4.7	†	4.3	1.0		
甘いものをひかえる	4.0	4.5	5.5	4.1	4.2	3.1	1.7	3.9	4.0		5.7	2.6	2.7	***	3.5	3.2	4.8	3.5		3.4	3.5	4.5		4.0	4.0		
材料・量・調理法の工夫	3.2	6.5	3.5	3.1	2.3	3.3	3.3	3.0	3.5		4.3	2.5	2.1	*	4.2	3.0	3.7	2.6		3.2	2.1	3.7		3.3	1.0		
間食に対する配慮	2.2	3.2	3.5	3.3	1.5	1.6	—	*	2.3	2.1		2.5	1.9	2.4		2.1	2.5	2.6	1.2		2.5	1.3	2.4		2.3	1.0	
添加物・農薬等の害の少ないもの	1.8	1.3	1.2	2.1	2.8	1.0	1.7	1.8	1.9		1.6	1.8	2.7		2.1	1.3	1.9	2.1		1.8	1.3	2.1		1.8	2.0		
3度の食事を規則正しく	1.6	1.9	1.2	2.3	1.4	1.2	2.5	1.9	1.3		1.5	1.8	1.5		0.7	1.0	2.2	1.4		2.2	0.5	1.6		1.6	2.0		
毎日牛乳を飲む	1.3	0.6	2.3	1.5	1.2	1.0	0.8	1.6	0.9		1.5	1.1	1.2		0.7	1.5	1.4	1.2		1.4	1.1	1.3		1.3	1.0		
インスタント食品をさける	1.2	0.6	0.8	0.8	1.4	1.6	2.5	1.3	1.1		0.9	1.0	3.0	**	2.8	1.0	1.2	1.4		0.8	1.1	1.5		1.3	—		
ジュース・炭酸飲料をひかえる	1.2	0.6	2.0	1.0	1.2	1.4	0.8	1.0	1.5		0.8	1.0	3.3	***	0.7	1.0	1.4	1.7		1.4	1.1	1.2		1.3	1.0		
高カロリーで消化のよいもの	1.2	3.9	1.6	0.4	0.9	1.6	—	*	1.5	0.9		1.2	1.3	0.9		1.4	1.3	1.2	1.2		1.2	1.1	1.2		1.2	1.0	
手作りのものを与える	1.2	—	—	1.0	1.9	1.6	0.8	1.1	1.3		0.9	1.3	1.8		1.4	1.0	1.4	1.2		1.5	0.8	1.1		1.2	1.0		
新鮮なものを与える	1.0	1.9	2.3	0.8	0.9	0.6	—	0.8	1.2		1.1	0.8	1.5		1.4	1.2	1.0	0.7		0.7	0.5	1.4		1.0	1.0		
塩分をひかえる	0.6	—	0.4	0.2	0.8	0.8	0.8	0.3	0.9	†	0.5	0.7	0.3		0.7	0.3	0.6	0.7		0.3	1.1	0.6		0.6	—		
生水・なまものを摂らない	0.6	1.3	0.4	1.2	0.2	0.4	—	0.4	0.7		0.4	0.7	0.6		0.7	—	0.8	0.7		0.7	0.3	0.6		0.6	—		
暴飲・暴食をしない	0.5	—	0.4	0.6	0.6	0.4	0.8	0.4	0.6		0.2	0.8	0.6		0.7	0.2	0.5	0.9		0.7	0.5	0.4		0.5	—		
よく噛んで食べる	0.4	0.6	0.4	0.8	0.5	—	—	0.6	0.2		0.3	0.4	0.6		0.7	0.3	0.6	—		0.7	—	2.1	**	0.4	—		
その他	1.4	1.9	0.8	1.5	1.2	1.8	0.8	1.4	1.3		1.6	1.5	0.3		—	1.2	1.7	1.7		1.4	2.4	1.0		1.4	2.0		

(†: P<0.1 * : P<0.05 ** : P<0.01 *** : P<0.001)

識が高く、後者では人工栄養児の親の意識が最も高い。

- ② 「バランスのとれた食事」: 全体での意識率は12.3%。育児意識に有意差があるのは児の出生順位であり、第1子の親の意識が最も高い。
- ③ 「野菜や果物を多く」: 全体での意識率は8.9%。育児意識に有意差がみられたのは児の既往症であり、既往症有り児の親の意識が高い。
- ④ 「カルシウム・鉄分を摂る」: 全体の意識率4.1%。意識に有意な差があるのは出生順位であり、第1子の親の意識が最も高い。乳児期栄養法においては、人工栄養児の親の意識が低いという傾向がみられる。
- ⑤ 「甘いものをひかえる」: 全体では4.0%。有意差は出生順位においてみられ、第1子の親が最も高い意識率を示している。
- ⑥ 「材料・量・調理法の工夫」: 全体の意識率3.0%。有意な意識差は出生順位において認められ、第1子の親の意識が最も高い。
- ⑦ 「間食に対する配慮」: 全体では2.2%。意識に有意差が認められるのは児の年齢であり、年齢が高くなるにつれて親の意識が低くなっている。
- ⑧ 「添加物・農薬等の害の少ないもの」: 意識率1.8%。育児意識と児の生育状況間に有意差はない。
- ⑨ 「3度の食事を規則正しく」: 意識率1.6%。前項と同じく有意な差は認められない。
- ⑩ 「毎日牛乳を飲む」: 意識率1.3%。前項同様有意な差は認められない。

- ⑪ 「インスタント食品をさける」：意識率1.2%。育児意識に有意差がみられるのは児の出生順位であり、第3子以上児の親が最も高い。
- ⑫ 「ジュース・炭酸飲料をひかえる」：意識率は1.2%。育児意識に有意差がみられるのは前項同様に児の出生順位であり、前項と同じく第3子以上児の親が最も高い。
- ⑬ 「高カロリーで消化のよいもの」：意識率は1.2%。育児意識に有意差があるものは児の年齢であり、0～1歳児の親が最も高く、6歳児の親では0%となっている。
- ⑭ 「手作りのものを与える」：意識率1.2%。
- ⑮ 「新鮮なものを与える」：意識率1.0% } 育児意識と児の生育状況間に有意な差はみられない。
- ⑯ 「塩分をひかえる」：意識率0.6%。男児の親に比して女児の親の方が意識が高い傾向がみられる。
- ⑰ 「生水・なまものを摂らない」：意識率0.6%。
- ⑱ 「暴飲暴食をしない」：意識率0.5%。 } 育児意識と生育状況間に有意差はない。
- ⑲ 「よく噛んで食べる」：意識率0.4%。育児意識に有意な差がみられたのは児の乳児期栄養法であり、人工栄養児の親は意識率0%であった。
- ⑳ 「その他」：意識率1.4%。育児意識に有意差は認められない。

2) 衛生習慣に関する育児意識と生育状況の関係

衛生習慣に関する育児意識と生育状況とをクロス集計すると、表5のとおりである。

表5 衛生習慣に関する育児意識と生育状況の関係

(単位：%)

区分	全体の意識率	年齢							性別			出生順位				出生時体重				乳児期栄養法				既往症			
		0~1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	x ² 検定	男児	女児	x ² 検定	1子	2子	3子以上	x ² 検定	2500g未満	2500g~2999g	3000g~3499g	3500g以上	x ² 検定	母乳	人工	混合	x ² 検定	有る	無し	x ² 検定
手洗い	31.1	27.7	32.0	31.5	32.4	30.5	28.3		32.4	29.8		34.8	30.1	23.4	***	32.6	30.4	32.1	31.1		33.7	24.2	31.9	**	31.2	29.7	
歯みがき	17.8	21.3	19.5	18.0	19.3	16.2	7.5	*	18.1	17.5		23.0	15.3	10.5	***	20.1	16.3	19.6	15.8		17.2	13.8	19.7	*	17.6	21.8	
うがい	10.5	4.5	9.8	9.8	11.1	11.7	14.2	†	10.4	10.6		11.0	11.5	6.3	*	13.2	10.3	11.3	8.3		11.8	7.2	10.9	†	10.8	5.0	†
入浴・洗髪	2.7	1.3	4.3	1.9	2.8	2.9	2.5		3.2	2.1	†	2.8	2.5	2.7		1.4	3.0	3.1	1.9		2.8	1.6	2.9		2.7	3.0	
排便	1.3	0.6	1.6	1.2	1.4	1.6	—		1.1	1.5		1.4	1.5	0.3		0.7	1.3	1.7	0.7		1.2	0.8	1.4		1.3	1.0	
洗顔	1.1	0.6	2.3	1.5	0.8	1.0	—		0.5	1.7	**	1.8	0.8	—	*	0.7	0.8	1.3	1.4		1.0	0.5	1.4		1.1	2.0	
つめ切り	1.1	1.3	—	1.2	1.5	0.8	1.7		1.3	0.9		1.0	1.3	0.3		1.4	0.8	1.3	1.2		0.8	1.1	1.3		1.0	4.0	**
清潔	1.0	1.3	1.6	1.0	0.6	0.8	1.7		0.7	1.2		0.9	1.3	0.3		—	1.2	0.7	1.7		1.1	0.8	0.9		0.9	2.0	
日光浴・乾布きまつ等	0.3	1.3	0.4	0.2	0.3	—	0.8		0.4	0.2		0.5	0.1	0.3		—	0.3	0.5	—		0.3	—	0.5		0.3	—	
その他	1.1	1.3	1.6	1.7	0.5	1.2	—		1.0	1.1		0.9	1.4	0.6		1.4	1.3	1.0	0.7		1.5	0.3	1.0		1.0	2.0	

(† : P<0.1 * : P<0.05 ** : P<0.01 *** : P<0.001)

- ① 「手洗い」：全体での意識率は31.1%で極めて高率である。育児意識と生育状況の間に有意な差が認められたのは、児の出生順位と乳児期の栄養法であった。前者では第1の親の意識が最も高く、後者では人工栄養児の親の意識が最も低い。
- ② 「歯みがき」：全体の意識率は17.8%。意識に有意差がみられるのは児の年齢・出生順位・乳児期栄養法であった。年齢では0～1歳の親の意識が最も高く、加齢とともに意識は低くなり、6歳児の親は最低である。これは、6歳児はほとんど「歯みがき」の習慣が定着したことを表しているものと思われる。出生順位では第1子の親が最も意識が高く、乳児期栄養法では人工栄養児の親の意識が最も

低い。

- ③ 「うがい」：全体の意識率10.5%。有意な意識差が認められるのは児の出生順位であり，第2子の親の意識が最も高い。また，児の年齢が高くなるにつれて親の意識が高くなること，人工栄養児・既往症無し児の親の意識は低いこと等の傾向もみられた。
- ④ 「入浴・洗髪」：意識率は2.7%で，女兒の親より男児の親の方が意識が高い傾向を示している。
- ⑤ 「排便」：意識率1.3%。育児意識と生育状況間に有意な差はみられない。
- ⑥ 「洗顔」：意識に差があるのは児の性と出生順位であり，前者では女兒の親の意識が，後者では第1子の親の意識が有意に高い。
- ⑦ 「つめきり」：意識率1.1%。有意な意識差があるのは児の既往症で，既往症無し児の親の意識は既往症有り児の親の4倍も高い。
- ⑧ 「清潔」：全体での意識率は1.0%。
- ⑨ 「日光浴・乾布まさつ等」：意識率0.3%。
- ⑩ 「その他」：意識率1.1%

} いずれも育児意識と生育状況間に有意な差はない。

3) 衣服に関する育児意識と生育状況の関係

育児に関する育児意識と生育状況とをクロス集計すると，表6のとおりである。

表 6 衣服に関する育児意識と生育状況の関係

(単位：%)

区 分	全体の意識率	年 齢						性		出 生 順 位				出 生 時 体 重				乳 児 期 栄 養 法			既 往 症						
		0~1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	x ² 検定	男児	女児	1子	2子	3子以上	x ² 検定	2500g未満	2500g~2999g	3000g~3499g	3500g以上	x ² 検定	母乳	人工	混合	x ² 検定	有る	無し	x ² 検定	
清潔なものを着せる	21.1	19.4	22.7	20.1	22.4	19.9	22.5		21.6	20.7		23.8	19.6	17.7	*	24.3	20.1	21.6	21.5		20.5	16.5	23.2	*	21.0	23.8	
薄着にさせる	13.7	24.5	12.1	14.1	13.0	12.9	8.3	**	14.9	12.4	↑	15.0	13.6	9.9	↑	11.1	14.5	13.5	13.4		15.0	9.6	14.3	*	13.2	23.8	**
動きやすいもの	5.6	7.1	7.0	4.8	6.7	4.7	1.7		4.8	6.4		6.8	4.3	5.7	↑	6.3	4.5	6.0	5.9		6.6	3.7	5.6		5.6	5.9	
着脱しやすいもの	3.8	2.6	3.1	4.4	4.5	3.5	2.5		3.7	4.0		3.9	3.5	4.5		5.6	2.8	4.2	3.5		3.7	4.0	3.9		4.0	1.0	
化粧を着せない	2.8	2.6	0.8	2.7	2.2	4.3	5.0	*	3.0	2.6		3.6	2.4	1.8		2.1	3.2	2.5	3.3		2.9	1.1	3.4	↑	2.9	—	↑
気温により調節	1.8	5.8	1.2	1.2	1.9	1.4	0.8	**	1.4	2.1		2.3	1.5	0.9		1.4	2.0	1.9	1.4		1.8	1.1	2.0		1.6	4.0	↑
吸湿性に富むもの	1.7	2.6	2.3	1.5	1.7	1.0	2.5		1.8	1.5		1.8	1.4	1.8		1.4	2.0	1.9	0.9		2.1	1.3	1.5		1.6	2.0	
靴下をはかせない	0.3	1.3	0.8	0.6	—	—	—	*	0.4	0.3		0.4	0.2	0.3		—	—	0.5	0.5		0.4	0.3	0.3		0.3	—	
洗剤等への配慮	0.1	0.6	—	—	0.2	0.2	—		0.3	—	↑	0.2	0.1	—		—	—	0.2	0.2		0.3	—	0.1		0.1	—	
そ の 他	1.1	1.9	0.8	0.6	1.2	1.2	1.7		1.1	1.1		1.4	1.1	0.3		2.1	1.0	1.3	0.7		1.4	1.9	0.7		1.1	1.0	

(↑ : P<0.1 * : P<0.05 ** : P<0.01)

- ① 「清潔なものを着せる」：全体での意識率は21.1%である。親の育児意識に有意な差が認められたのは，児の出生順位と乳児期栄養法であった。前者では第1子の親の意識が最も高く，後者では人工栄養児の親の意識が最も低い。
- ② 「薄着にさせる」：全体の意識率13.7%。有意な意識差がみられたのは児の年齢・乳児期栄養法・既往症であった。年齢においては0~1歳児の親が格別に意識が高く，栄養法においては人工栄養児の親が，既往症においては既往症有り児の親が，ともに意識が低い。また，意識差のある傾向がみられたものは児の性と出生順位においてであり，前者では女兒の親が後者では第3子以上児の親が，いずれも意識が低い傾向を示している。

- ③ 「動きやすいもの」：意識率は5.6%。出生順位第1子の親は意識が高い傾向がみられる。
- ④ 「着脱しやすいもの」：意識率3.8%。育児意識と生育状況間には有意な差はみられない。
- ⑤ 「化粧を着せない」：意識率は2.8%。育児意識に差がみられるのは児の年齢であり、2歳児の親が最も低く6歳児の親が最も高い。また、人工栄養児の親、既往症無し児の親は、意識が低いという傾向がみられた。
- ⑥ 「気温により調節」：全体の意識率は1.8%。育児意識の差は児の年齢によって有意に認められ、0～1歳児の親の意識が格別が高い。既往症無し児の親は既往症有り児の親に比して意識が高い傾向もみられた。
- ⑦ 「吸湿性に富むもの」：意識率1.7%。育児意識と生育状況間に有意な差はみられない。
- ⑧ 「靴下をはかせない」：意識率0.3%。児の年齢によって有意な意識差があり、0～1歳児の親が最も高く、加齢とともに意識は低くなり、4・5・6歳では意識率0%である。
- ⑨ 「洗剤等への配慮」：意識率0.1%。女兒の親より男児の親の方が意識が高い傾向がみられる。
- ⑩ 「その他」：意識率1.1%。児の生育状況と育児意識間には有意な差はみられない。

4) 睡眠に関する育児意識と生育状況の関係

睡眠に関する育児意識と生育状況とをクロス集計すると、表7のとおりである。

表7 睡眠に関する育児意識と生育状況の関係

(単位：%)

区分	全体の意識率	年 齢							性			出 生 順 位				出 生 時 体 重					乳 児 期 栄 養 法				既 往 症		
		0~1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	χ ² 検定	男児	女児	χ ² 検定	1子	2子	3子以上	χ ² 検定	2500g未満	2500g<2999g	3000g<3499g	3500g以上	χ ² 検定	母乳	人工	混合	χ ² 検定	有る	無し	χ ² 検定
注意していること																											
早寝早起き	15.2	11.6	14.8	14.1	15.8	16.0	17.5		13.4	17.0	*	16.1	15.4	12.0		16.7	17.0	14.6	13.9		16.1	12.2	15.6		15.4	10.9	
睡眠時間を長く	13.7	14.2	13.3	12.0	13.9	15.4	12.5		14.9	12.5		13.5	13.1	15.9		11.1	14.0	13.9	13.9		14.3	13.3	13.4		13.7	14.9	
9時までに寝させる	7.0	6.5	5.5	7.1	7.6	7.0	6.7		7.1	6.8		8.2	6.7	4.2	*	8.3	5.7	7.6	6.8		5.6	7.2	7.8		6.9	7.9	
規則正しく寝起きさせる	6.2	10.3	7.4	7.1	5.3	4.9	5.8		5.7	6.7		7.7	6.0	2.7	**	9.7	6.5	5.9	5.9		5.1	4.5	7.6	*	6.3	4.0	
午睡をさせる	2.3	2.6	2.3	2.3	3.6	1.2	—	*	2.7	1.9		3.2	1.8	1.2	*	1.4	1.2	2.5	3.8	*	2.1	1.9	2.6		2.2	4.0	
落ち着いた雰囲気づくり	1.3	3.2	2.3	1.2	0.9	0.8	1.7		1.4	1.2		1.5	1.3	0.9		—	0.8	2.0	0.9	†	1.7	1.3	1.1		1.4	—	
寝具の清潔・乾燥	1.1	3.2	2.0	0.6	0.6	0.8	1.7	*	1.3	0.8		0.8	0.9	2.1	†	—	0.5	1.3	1.4		1.0	1.1	1.0		1.0	1.0	
寝冷えさせない	0.4	1.3	1.2	—	0.2	0.4	—	*	0.4	0.4		0.6	—	0.6	†	0.7	0.5	0.4	—		0.6	—	0.4		0.4	—	
添い寝をする	0.2	1.9	—	0.2	0.2	—	—	***	0.2	0.3		0.3	—	0.6		0.7	0.2	—	0.5		0.4	0.3	0.1		0.2	—	
その他	0.5	0.6	—	0.2	0.8	0.2	2.5	*	0.7	0.3		0.5	0.7	—		2.8	0.2	0.1	1.2	***	0.7	0.5	0.4		0.5	—	

(†: P<0.1 * : P<0.05 ** : P<0.01 *** : P<0.001)

- ① 「早寝早起き」：全体での意識率は15.2%である。児の性において親の意識に有意な差があり、男児より女児の親の意識が高い。
- ② 「睡眠時間を長く」：全体での意識率13.7%。育児意識と生育状況間に有意な差はみられない。
- ③ 「9時までに寝させる」：全体の意識率7.0%。育児意識の有意差は児の出生順位において認められ、第1子の親の意識が最も高い。
- ④ 「規則正しく寝起きさせる」：意識率6.2%。有意な意識差が認められたのは児の出生順位と乳児期栄養法であり、前者では第3子以上児の親の意識が、後者では人工栄養児の親の意識がいずれも最も低い。

- ⑤ 「午睡をさせる」：意識率は2.3%。育児意識に有意差があるのは児の年齢・出生順位・出生時体重であった。年齢では4歳児の親の意識が最も高く、6歳児の親が最も低い。就学をひかえた6歳児には午睡をさせないという親の意識がうかがえる。出生順位では第1子の親が、出生時体重では3500g以上児の親の意識が最も高い。
- ⑥ 「落ち着いた雰囲気づくり」：意識率は1.3%。出生時体重2500g未満の低体重児の親の意識が高いという傾向がみられる。
- ⑦ 「寝具の清潔・乾燥」：全体の意識率1.1%。児の年齢において有意な意識差があり、0～1歳児の親の意識が最も高く、児の出生順位においては第3子以上児の親の意識が高いという傾向がある。
- ⑧ 「寝冷えをさせない」：全体の意識率は0.4%。児の年齢において育児意識に有意差があり、0～2歳児の親の意識が高い。また、出生順位第2子の親の意識が低いという傾向もみられる。
- ⑨ 「添い寝をする」：意識率0.2%。0～1歳児の親の意識が最も高く有意な差が認められる。
- ⑩ 「その他」：意識率0.5%。育児意識と児の年齢および出生時体重において有意な差がみられた。

5) 運動に関する育児意識と生育状況の関係

運動に関する育児意識と生育状況とをクロス集計すると、表8のとおりである。

表8 運動に関する育児意識と生育状況の関係

(単位：%)

区分	全体の意識率	年 齢							性			出 生 順 位				出 生 時 体 重					乳 児 期 栄 養 法				既 往 症		
		0~1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	x ² 検定	男児	女児	x ² 検定	1子	2子	3子以上	x ² 検定	2500g未満	2500g以上2999g	3000g以上3499g	3500g以上	x ² 検定	母乳	人工	混合	x ² 検定	有	無	x ² 検定
注意していること																											
戸外で遊ばせる	21.9	23.9	21.1	21.8	22.3	20.9	23.3		22.9	20.8		23.1	21.4	19.5		22.2	22.0	21.3	23.8		21.2	15.4	24.8	***	22.1	17.8	
自由に遊ばせる	5.4	7.1	5.9	5.0	5.6	5.9	0.8		5.4	5.4		5.2	6.0	4.2		11.1	5.7	4.9	4.0	**	6.1	4.3	5.3		5.3	6.9	
なるべく歩かせる	2.6	7.7	2.7	2.7	2.2	2.0	0.8	**	2.0	3.3	*	4.0	1.9	0.9	**	2.8	2.2	3.1	2.4		2.1	1.9	3.3		2.5	5.0	
体操・マラソン・なわとび等で体力づくり	2.4	1.3	2.0	2.5	1.4	3.9	4.2	*	2.8	2.1		3.5	1.9	1.2	*	2.1	2.0	2.6	2.8		1.9	2.7	2.7		2.4	3.0	
事故(危険)防止	1.8	1.3	1.2	1.9	2.3	1.6	1.7		2.2	1.4		1.5	2.1	1.8		1.4	2.2	1.7	1.4		1.9	2.4	1.4		1.8	2.0	
親と一緒に遊ぶ	1.1	1.3	1.6	1.0	0.9	1.0	1.7		1.0	1.2		1.4	1.1	0.3		2.1	0.8	0.8	1.9		1.0	1.3	1.1		1.0	3.0	†
体育施設へ行かせる	0.7	—	—	0.6	0.5	1.8	0.8	*	1.0	0.5		0.5	1.2	—	†	2.1	1.0	0.3	0.9	†	1.1	0.5	0.6		0.8	—	
発達段階に応じた運動をさせる	0.7	1.9	0.8	0.4	0.5	1.2	—		0.7	0.8		0.9	0.8	0.3		0.7	0.8	0.8	0.5		0.6	0.5	0.8		0.7	1.0	
保育園にまかせる	0.6	0.6	1.2	0.6	0.5	0.4	1.7		0.7	0.6		0.9	0.7	—		0.7	0.3	0.5	0.9		1.1	0.5	0.4		0.7	—	
その他	0.6	0.6	1.2	—	0.6	0.8	—		0.4	0.7		0.4	0.7	0.6		—	0.5	0.6	0.7		0.7	0.3	0.6		0.6	—	

(†: P<0.1 *: P<0.05 **: P<0.01 ***: P<0.001)

- ① 「戸外で遊ばせる」：全体での意識率は21.9%である。児の乳児期栄養法において育児意識に有意差が認められ、人工栄養児の親の意識が最も低い。
- ② 「自由に遊ばせる」：全体での意識率は5.4%。児の出生時体重において有意な意識差がみられ、2500g未満の低体重児の親の意識が格別が高い。
- ③ 「なるべく歩かせる」：全体での意識率は2.6%。育児意識の有意差は児の年齢・性・出生順位において認められ、年齢では0～1歳児が最も高く、加齢とともに親の意識は低くなっている。性では女児の親が、出生順位では第1子の親の意識が、有意に高い。
- ④ 「体操・マラソン・縄とび等で体力づくり」：全体の意識2.4%。育児意識に有意な差が認められたのは児の年齢と出生順位である。前者では0～1歳児が最も低く、4歳児を除き加齢とともに親の意

識は高くなり、後者では第1子に対する親の意識が最も高い。

- ⑤ 「事故（危険）防止」：意識率は1.8%。育児意識と児の生育状況間には有意差がみられない。
- ⑥ 「親と一緒に遊ぶ」：意識率1.1%。既往症無し児の親の意識が高い傾向がみられる。
- ⑦ 「体育施設へ行かせる」：意識率0.7%。意識に有意差があるのは児の年齢で0～2歳児の親は最も低く5歳児の親が最も高い。また、出生順位では第2子の親が、出生時体重では2500g未満低体重児の親の意識が、最も高いという傾向もみられた。
- ⑧ 「発達段階に応じた運動をさせる」：意識率0.7%。
- ⑨ 「保育園にまかせる」：意識率0.6%。
- ⑩ 「その他」：全体での意識率は0.6%。

} いずれの生育状況においても有意差なし。

6) 住居に関する育児意識と生育状況の関係

住居に関する育児意識と生育状況とをクロス集計すると、表9のとおりである。

表9 住居に関する育児意識と生育状況の関係

(単位：%)

区分	全体の意識率	年 齢						性			出 生 順 位				出 生 時 体 重				乳 児 期 栄 養 法				既 往 症				
		0~1	2	3	4	5	6	χ ² 検定	男	女	χ ² 検定	1	2	3	χ ² 検定	2500g未満	2500g	3000g	3500g以上	χ ² 検定	母乳	人工	混合	χ ² 検定	有	無	χ ² 検定
		歳	歳	歳	歳	歳	歳		児	児		子	子	子以上		g	g	g	g		乳	乳	乳		乳	る	
清潔・整理整頓	8.2	12.3	7.4	8.7	8.0	7.6	5.8		8.6	7.8		9.4	7.1	7.8		11.1	6.7	8.6	8.7		8.7	4.8	9.1	*	8.2	8.9	
換気・通風・日当たり	7.0	8.4	9.0	4.4	7.3	7.6	6.7		7.1	6.8		8.7	5.3	6.6	*	9.0	5.3	7.4	7.8		8.0	3.7	7.4	*	6.9	7.9	
屋内外の危険防止	2.7	7.7	4.3	3.3	1.7	1.6	0.8	***	3.3	2.1	†	3.6	2.2	1.5	†	3.5	2.8	2.5	2.8		2.3	2.9	2.9		2.7	3.0	
運動空間への配慮	1.7	4.5	3.1	1.2	1.7	0.4	1.7	**	2.2	1.0	*	2.2	1.4	0.9		2.1	1.7	1.7	1.7		1.7	1.1	1.8		1.6	2.0	
温度・湿度の調節	1.6	3.2	0.8	1.5	1.1	2.3	0.8		1.2	2.0		1.7	1.5	1.2		0.7	2.0	1.6	1.2		1.5	0.8	1.8		1.5	2.0	
屋内外の雰囲気づくり	1.1	0.6	2.3	1.0	1.2	0.6	—		1.2	0.9		1.3	1.1	0.3		2.1	1.3	0.9	0.5		1.5	0.5	0.9		1.1	1.0	
害虫の駆除防止	0.5	—	0.4	—	0.6	0.8	0.8		0.4	0.6		0.5	0.3	0.6		—	0.2	0.7	0.2		0.6	—	0.6		0.4	2.0	*
屋内での禁煙	0.1	0.6	—	0.2	—	0.2	—		0.1	0.2		—	0.2	0.3		—	—	0.2	0.2		0.1	0.3	0.1		0.1	1.0	*
その他	0.3	—	1.2	0.4	0.3	—	—		0.4	0.2		0.3	0.2	0.6		—	0.2	0.2	0.9	†	0.6	0.3	0.2		0.3	—	

(†: P<0.1 *: P<0.05 **: P<0.01 ***: P<0.001)

- ① 「清潔・整理整頓」：全体での意識率8.2%。育児意識に有意な差が認められたのは児の乳児期栄養法で、人工栄養児の親の意識が格別に低い。
- ② 「換気・通風・日当たり」：全体の意識率7.0%。育児意識に有意差がみられるのは児の出生順位と乳児期栄養法であった。前者では第2子、後者では人工栄養児の親の意識が最も低い。
- ③ 「屋内外の危険防止」：意識率2.7%。有意な意識差があるのは児の年齢で、0～1歳児の親が最も高く、加齢とともに漸次意識は低くなっている。また、性において男児、出生順位において第1子の親の意識が高いという傾向がみられた。
- ④ 「運動空間への配慮」：意識率1.7%。児の年齢・性において有意な意識差がみられる。年齢では0～1歳児の親が最も高く、5歳児の親の意識が最も低い。また、性では男児の親の意識が高い。
- ⑤ 「温度・湿度の調節」：意識率1.6%。
- ⑥ 「屋内外の雰囲気づくり」：意識率1.1%。
- ⑦ 「害虫の駆除防止」：意識率0.5%。既往症無し児の親の意識が有意に高い。
- ⑧ 「屋内での禁煙」：意識率0.1%。既往症無し児の親の意識が有意に高いが、これは前項の意識差と

もどもに極めて今日的な問題点を示しており、極めて興味深い結果と言えよう。

- ⑨ 「その他」：意識率0.3%。児の出生時体重において3500g以上児の親の意識が有意に高い。

ま と め

岡山県下24保育所児2171名を対象とし、乳幼児の健康にかかわる親の育児意識について考察した結果を要約すると、次のとおりである。

1. 保健衛生上に何らかの注意を払いながら育児に当たっている健康意識の高い親は64.9%いる。反面、格別の注意をしていない親が35.1%とかなり多い。
2. 保健衛生上の注意に関する回答6,559件のうち、食物に関する項目が24.3%で最も多く、衛生習慣に関する項目22.6%、衣服17.2%、睡眠15.8%、運動12.5%と続き、住居に関する項目は7.6%で最も少ない。
3. 保健衛生に関する育児意識で最も高いのは、表10のとおり「手洗いの習慣をつける」であり、以下「偏食をさせない」、「戸外で遊ばせる」、「清潔な衣服を着せる」である。
4. 意外に育児意識が低いのは、「排便」、「洗顔」等の基本的な生活習慣で、いずれも1%台の低率である。
5. 「添加物・農薬等の害の少ないものを与える」、「インスタント食品をさける」、「化繊を着せない」、「洗剤等への配慮」、「体育施設へ行かせる」、「保育園にまかせる」、「屋内での禁煙」等、現代生活における新しい問題点が親の育児意識にも反映していることがうかがえた。
6. 親の育児意識と子どもの生育状況との関係において、有意差もしくは差のある傾向が認められたものは79項目あり、出生順位における差23項目、年齢における差19項目、乳児期栄養法における差13項目、性における差および既往症における差はいずれも9項目、出生時体重における差は6項目であった。

1) 出生順位における親の意識差

23項目中「手洗い」等18項目において第1子が最高であり、第2子は「うがい」、「体育施設へ行かせる」の2項目のみが最高、第3子以上児は「インスタント食品をさける」、「ジュース・炭酸飲料をひかえる」、「寝具の清潔・乾燥」の3項目のみが最高であった。

2) 年齢における親の意識差

19項目中13項目において低年齢児が高率を示し、6項目において高年齢児が高率を示している。前者には「高カロリーで消化のよいもの」、「薄着にさせる」等があり、後者には「うがい」、「体操・マラソン・縄とび等で体力づくり」等がある。

3) 乳児期栄養法における親の意識差

「手洗い」ほか13項目すべてにおいて人工栄養児が最低であった。

4) 性における親の意識差

9項目中5項目において男児が、4項目において女児が高率であった。前者には「薄着にさせる」、「運動空間への配慮」等があり、後者には「洗顔」、「早寝早起き」等がある。

表10 育児意識ベスト・10

順位	注意していること	意識率
1位	手洗いの習慣をつける	31.1%
2位	偏食をさせない	24.6
3位	戸外で遊ばせる	21.9
4位	清潔な衣服を着せる	21.1
5位	歯みがきの習慣をつける	17.8
6位	早寝早起き	15.2
7位	薄着にさせる	13.7
8位	睡眠時間を長く	13.7
9位	バランスのとれた食事	12.3
10位	うがいの習慣をつける	10.5

5) 既往症における親の意識差

9項目中6項目において既往症無し児が高く、その項目は「つめきり」、「薄着にさせる」、「気温により衣服を調節」、「害虫の駆除防止」、「屋内での禁煙」等であった。

9項目中3項目において既往症有り児が高く、その項目は「野菜や果物を多く」、「うがい」等であった。

稿を終えるにあたり、アンケート調査にご協力くださいました各保育所の所長先生ならびに諸先生方に心からの謝意を表します。

参 考 文 献

- (1) 藤井 栞：「保育所児の主要傷病罹患の実態」 中国短期大学紀要第15号
- (2) 藤井 栞：「保育所児の健康状態と生育環境の関係」 中国短期大学紀要第16号
- (3) 藤井 栞：「保育所児の主要傷病罹患と住居環境の関係」 日本保育学会第37回大会研究論文集
- (4) 藤井 栞：「保育所児の健康状態と住居環境の関係」 日本保育学会第38回大会研究論文集
- (5) 藤井 栞：「家族の喫煙と乳幼児の健康に関する研究」 中国短期大学紀要第17号
- (6) 厚生統計協会：国民衛生の動向（1986年，1987年）
- (7) 母子衛生研究会：母子衛生の主なる統計（1980年）
- (8) 東京都衛生局：東京都乳幼児保健実態調査（1973年）

〈付記〉

本研究は、昭和61年度中国短期大学特別研究費助成を受けたものであり、大学当局に深く感謝いたします。